環境省

募集広告

# 第19回環境コミュニケーション大賞
# 「環境活動レポート部門」作品募集

エントリー開始
**10月8日(木)**
▼
エントリー締切
**11月13日(金)**
当日消印有効
**奮ってご応募ください！**

環境コミュニケーション大賞は、優れた環境報告書等を表彰することにより、事業者等の環境経営及び環境コミュニケーションへの取組を促進するとともに、環境情報開示の質の向上を図ることを目的とする表彰制度です。

主催　環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム
協賛　一般社団法人サステナビリティ情報審査協会
協力　一般財団法人持続性推進機構、日本公認会計士協会（申請中）
後援　株式会社東洋経済新報社、一般社団法人日本経済団体連合会（申請中）、日本商工会議所、株式会社日本取引所グループ

## 表彰機会の拡充

近年環境活動レポートの水準が高くなっていることから、一定水準以上のレポートのうち、同業他社や同等規模の事業者の参考になる報告書を優良賞として表彰します。

## 全応募事業者へのフィードバック

環境コミュニケーションに様々な立場から携わる専門家による、今後のレポート作成に役立つフィードバックを全応募事業者に個別に行います。

受賞者の声

第18回環境コミュニケーション大賞
環境活動レポート部門大賞受賞

## イワヤ株式会社

### 環境報告大賞を受賞して

当社では、以前から「Smile　Green」を環境スローガンとして掲げ、「こども達の未来が笑顔であふれるように、今、私達ができる事、すべき事を私達自身も笑顔で楽しく行動していこう！」という想いを持ちながらCSR活動に取り組み、CSRレポートを作成していました。その後、2013年にエコアクション２１の認証取得をし、環境活動レポートを同様の思いのもと、作成しています。

環境コミュニケーション大賞で「大賞」を受賞したことは、「私達ができる事」として、社内でエコ検定の取得を奨励したり、部署ごとで省エネの取組を発案したりするなどの環境への取組を進める上で、これまでの活動に対する自信や社員のモチベーションの向上につながったと実感しています。

### 環境コミュニケーションの取組で意識していること

当社が環境活動レポートを作成するに当たり意識していることは、読者を具体的にイメージしながら作成するということです。玩具メーカーとして、「おもちゃを通じてこども達に環境メッセージを伝えたい」という想いもあり、双方向のコミュニケーションができる玩具の製造に取り組んできました。

レポートも、こども達にとって親しみやすいものを作成することで、実際に読んで理解してもらえるレポートとなるよう、意識して作成しています。

社員の方々

こどもたちの笑顔と明るい未来に思いを込めた商品

### 第18回環境コミュニケーション大賞受賞作品への講評（表彰式パンフレットより）

玩具等の企画・開発製造・販売を行っている事業者として、優しい色使いとキャラクターを用い可愛さを感じさせるレポートは、事業内容と調和しており、読み手である消費者、特に子供を持つ家庭を意識したデザイン・構成で大変わかりやすい環境活動レポートです。環境方針の内容、環境目標達成の手段、結果の評価と考察も明快です。また、社内における環境活動推進の基軸となるPOPの内容にもセンスが感じられ、環境活動に会社が注力していることがうかがえ、従業員の環境意識を高めることの一助となっていることが推察されます。

環境法令と実施状況の評価も他社の手本となる内容です。本業に関連し、ソーラー電池で動く製品や、FSC認証木材を使った製品を扱っていることは評価されます。今後は、現在検討中とされる蓄電池を使った玩具の開発が期待されます。

第18回環境コミュニケーション大賞
環境レポート部門大賞受賞
イワヤ株式会社
環境活動レポート2013年度版
（2014年9月発行）

**企業概要**
設　立：昭和30年
所在地：東京都足立区
従業員数：30名
業　態：玩具等の企画・開発、製造・販売

**募集の詳細はこちらをご覧ください → http://www.gef.or.jp/**

## 平成27年度環境コミュニケーション大賞運営方針

環境問題が大規模かつ複雑になっている現在、中小企業が環境経営に取り組むことが一層期待されています。例えば、大企業は自社の取組だけでなく、バリューチェーン、中でもサプライチェーンでの環境・社会影響にも責任を問われることも増えてきています。そこで、一次取引先だけでなく、最上流までグリーン購買・CSR購買を広げつつあります。今年 11 月に開催される気候変動枠組条約締結国会議（COP21）では 2020 年以降の枠組みが確定することになっており、我が国においても、2030 年までに 2013 年比で温室効果ガス 26%削減を掲げ、その目標達成のための対策を一層強化しています。

こうした状況の中で、自ら環境等に取り組み、積極的に情報発信を行うことは、企業の持続可能な発展には欠かせない活動と言えます。その有効な手段がエコアクション２１であり、環境活動レポートです。簡潔かつ読みやすい環境活動レポートはステークホルダーの信頼を高めます。それだけでなく、企業にとって重要なステークホルダーである従業員の誇りにもなり生産性向上にもつながります。

このような中、第 19 回環境コミュニケーション大賞は、多様な立場の専門家による審査を実現するとともに、応募された全レポートに対しフィードバックを行うことで、応募事業者の環境コミュニケーションの質の向上に取り組みます。

## 第１９回環境コミュニケーション大賞のスケジュール

**10月8日(木)**
作品募集開始
**～11月13日(金)**
**当日消印有効**

**募集対象は？**
エコアクション21認証・登録制度により認証・登録をした事業者が、平成26年11月から平成27年10月までに発行した環境活動レポートのうち、レポート対象期間が1年以上あるものです。

**11月上旬～１月上旬**
ワーキンググループ委員会（注）による１次審査の実施

（注）ワーキンググループ委員会では、環境報告書に様々な立場から関わる専門家が、それぞれの立場から報告書の審査を行います。
（例：学識経験者、事業者、会計士、環境コンサルタント等）
※ワーキンググループメンバーは、選考結果発表時に公表します。

**１月下旬**
最終審査委員会の開催
審査委員会では、以下の審査委員による選考審査を行います。

**２月下旬**（予定）
表彰式の開催

**＜環境活動レポート部門審査委員＞**　**（委員長を除く50音順：予定）**
委員長：山本　良一（東京大学名誉教授、東京都市大学特任教授）
奥山　裕矢（環境省総合環境政策局環境経済課長）
小澤ひろこ（国際統合報告評議会（IIRC）リレーションシップ・マネージャー）
上妻　義直（上智大学経済学部教授）
後藤　敏彦（環境監査研究会代表幹事／G4マルチステークホルダー委員会アドバイザー）
佐藤　　泉（弁護士）
寺田　良二（一般社団法人サステナビリティ情報審査協会副会長（プライスウオーターハウスクーパース サステナビリティ株式会社社取締役））
藤村コノヱ（認定NPO法人 環境文明21共同代表）
森下　　研（一般財団法人持続性推進機構専務理事）
八木　裕之（横浜国立大学国際社会科学研究院教授）
和貝　享介（日本公認会計士協会常務理事）

### 第 19 回環境コミュニケーション大賞　審査委員長　山本良一氏からのメッセージ

山本良一氏

環境コミュニケーション大賞は、前身の「環境アクションプラン大賞」や「環境レポート大賞」もあわせると、今年で19回目を迎えます。その間、企業の環境報告を取り巻く環境は大きく変わってきました。様々な地球環境問題が「待ったなし」の局面を迎える中で、全ての事業者が、それぞれの事業活動を通じてどのように環境に貢献できるかを開示することは、今後ますます重要なことになっていきます。
ぜひ、貴社の環境コミュニケーションのあり方について考えるきっかけとして、第19回環境コミュニケーション大賞へご応募いただければと思います。

●本事業について
環境省総合環境政策局環境経済課
課長補佐：齋藤　担当：大川、永宮
電話：03-5521-8240

●お申込等に関するお問合せ（事務局）
株式会社ダイナックス都市環境研究所
担当：谷口、北本、佐久間
〒105-0003　東京都港区西新橋 2-11-5TKK 西新橋ビル 3F
電話：03-3580-8221　　メール：eco-com19@dynax-eco.com

Ver1.0　平成27年10月